

THE LATEST DOSHISHA



法人部

●第二十二回新島講座開催

四月九日、大学恵道館二〇一番教室において第二十二回新島講座が大学工学部との共催で開催された。講師は、一九九一年にノーベル物理学賞を受賞されたピエール・ド・ジルド・ジェンヌ氏（コレージュ・ド・フランス教授、パリ市立工業物理・化学高等学院(ESPCI)学長)で、演題は「Soft matter」であった。実験や応用を重視されるド・ジェンヌ教授は、沢山のOHPを使用

用して、様々な界面現象をゆつくりとした英語で分かりやすく講演された。講演の記録は追って出版の予定である。

●一九九八年春の叙勲受章

五月十二日、国立劇場大劇場で一九九八年春の叙勲の伝達式が挙行政され、本法人関係者からは、大学名誉教授遠藤彰氏が勲三等旭日中綬章を受章され、大学名誉教授野辺地正之氏が勲三等瑞宝章を受章された。

●一九九八年度入社式挙行政

四月三日、大学神学館礼拝堂にて入社式を挙行政した。本年度の四月一日付採用は、大学教員十四人、女子大学教員三人、高校教員一人、香里中高教員二人、女子中高教員二人、国際中高教員四人、中学教員一人、大学職員七人、女子大学職員一人、計三十六人である。松山義則総長と野本真也理事長から歓迎のことが述べられ、野本理事長から一人一人に辞令が手渡された。

大学

●今出川校地への休日入構

五月十七日から、「開かれたキャンパス」を目指し、今出川校地への休日(日曜日)

の入構措置を暫定的に実施している。また、十月四日からは今出川図書館も開講期間および試験期間の日曜日に開館されている。

従来、教職員以外の休日におけるキャンパスへの入構は、予め届け出をしていない場合はできなかったが、今回の措置により当分の間、特別の事情がない限り、在學生、卒業生をはじめ一般の方も休日でも自由に入構できるようになった。

実施要領は以下のとおり。

◆実施日 毎週日曜日

◆時間 十時～十七時

◆方法 当日は正門および西門の小門を開け、ハリス理化学館内の卒業生ラウンジおよび

「Tezima Room」(新島襄関係資料の展示室)、今出川図書館を開室

●フランス・キング文庫開設

二十八歳で執筆された小説『隔てる川』がサマセット・モーム賞に輝いた、現代イギリス文学を代表する著名な作家の一人であるフランス・キング氏は、一九五九年から四年半の間、京都ブリティッシュ・カウンシルの初代館長を務められ、京都を中

心に大きな足跡を残された。

京都を、日本をこよなく愛されるキング氏の著作には短編集『日本の雨傘』、長編小説『税関』など日本を題材に取り上げた作品も多く、他に『家畜』『闇の行為』などがある。

今回、フランス・キング協会の申し出を受け、今出川図書館特別閲覧室にフランス・キング文庫を開設。キング氏から贈られた自著、書簡、書評、草稿などを中心に二百余点を展示している。今後モング氏および全国の協会員より資料の寄贈を受ける予定となっている。

●EU資料センターを今出川図書館に移設

EU資料センター(EDC)は、欧州委員会が欧州統合の研究を促進し、またEUおよびその政策に関する情報を一般の方々にも提供するために世界各地の大学など約六百機関に設置しているもの。

現在、日本では十九大学にEDCが設置され、なかでも、本学は一九七六年から二十年余、法学部研究室で運営してきたが、EDC設立の趣旨を尊重し、学内利用者や広く一般の方々の利用(時間・場所)の便

宜を図るため、一九九八年四月、学術情報センター(今出川図書館)に移設した。

提供する資料は、EC出版局から送られてくる公式出版物や資料で、EC官報や、欧州裁判所判例集、統計、COM資料などがあり、利用頻度の高い資料は「EU資料センター」(左)に配架している。

(URL <http://europa. ea. int>)

●田辺キャンパスを学生ガイドがご案内します

毎年約三千人もの見学者が訪れる田辺キャンパス。ここで今年度から見学者を本学の学生が案内する「田辺キャンパス学生ガイド」が登場した。一定の研修を受け、学生ガイドとして登録をしているのは、学部生十三人、大学院生四人。さっそく六月から高校生の団体などの見学に活躍している。

●「新島襄の書と絵」展開催中

十五歳頃まで書や絵を学び、生涯にわたる数少ない趣味のひとつとして折にふれて筆をとった新島襄の作品を紹介。九歳の時に描いた撫子花図、アメリカ留学時代にスケッチ、後年の揮毫など数十点を展示している。丹念に仕上げた作品はほとんど遺さ

れていないが、日記やノートに描いた粗描やイラスト、落書きなどから、新島が絵を描くことを楽しんでいた様子がうかがえ、その温かい人柄がしのばれて興味深い。

●展示場所/Neesima Room(今出川校地・ハリス理化学館二階)

●展示期間/十月三十一日(土)まで

●開室時間/九時三十分～十七時(土曜は十二時まで)

女子大学

●同志社女子大学創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念事業

一九九九年

同志社女子大学新制大学設置五十周年

二〇〇〇年度

同志社創立百二十五周年

二〇〇一年度

同志社女子大学創立百二十五周年

二十一世紀に向けて、学生、卒業生、教職員等、同志社女子大学に関わるすべての人々の絆を強め、本学のさらなる発展を目指して、前記三年間を記念事業期間として記念事業委員会を設置。次のような記念事

業を企画している。

主な記念事業

- ・ジェームズ館保存改修とコミュニティセンター（大学会館）建設
- ・記念行事（ホームカミングデー・記念式典・講演会・講演等）
- ・『同志社女子大学創立百二十五周年・新制大学設置五十周年記念写真集（誌）』発行
- ・募金活動

なお、第一回目のホームカミングデーが来年秋の一九九九年一月二〇日（土）に開催される。

記念事業に関するお問い合わせは、企画調査課（TEL 〇七七四・六五・八六三二、吉岡・斎藤）まで。

●ソウル女子大学より短期交換留学生を受け入れ

一九九七年一月二七日、同志社女子大学と、韓国のソウル女子大学との間で締結された学術交流協定に基づき、一九九八年六月にソウル女子大学より短期交換留学生を受け入れた。交換留学生は、日本語と日本文学の講義を受け、その講義に関連のある史跡等を訪問。その他、本学学生と「女性が求める社会像」をテーマにディスカッ

ションを行い、また、本学学生宅にホームステイするなどしてお互いの交流を図った。

●マウント・ホリヨーク大学「ヒバード奨学金」

マウント・ホリヨーク大学(Mt. Holyoke College)に本学卒業生のための特別奨学金が設けられた。同大学はアメリカ東部の名門私立女子大学で、エスタ・L・ヒバード本学初代学長の母校である。ヒバード元学長がご病気の折、本学卒業生が中心となり募金したお見舞金の一部が、元学長の意志により寄付され、奨学金となった。対象はマウント・ホリヨーク大学の正規の学生（一年間だけの留学も可）。

●学芸学部オーケストラコンサート

音楽学科の学生によるオーケストラコンサートが、七月四日に田辺キャンパス新島記念講堂にて開催された。黒岩英臣氏の指揮により、ヴェルディの「シチリア島の夕べの祈り」、「イベールの寄港地―三つの交響的絵画―」、ベートーヴェンの交響曲第七番「長調Op.93」が演奏された。

●第二十八回英語英文学夏期公開講座

七月三十日から八月一日までの三日間に

わたり、今出川キャンパスにおいて英語英文学夏期公開講座を開催した。講師・講座内容等は次の通り。

講座一 R. Hogeboom（本学専任講師）
“Educating Global Citizens: Are Universities Up to the Challenge?”

講座二 赤川裕（明治学院大学教授）

「1711英国庭園史」

講座三 山田真實（同志社大学助教授）

「イギリスの『モノ造り』の精神―ウエツジウッド、モリス、そしてリバティー」

講座四 田中春美（南山大学教授）

「世界各地の英語と日本の英語教育」

講座五 児玉実英（本学特任教授）

「英米文化と日本―ジャポニズムの波濤」

講座六 樋口恵子（東京家政大学教授）

「高齢社会と女性の生き方」

●京都府リカレント講座

京都府リカレント教育推進協議会との共催で一般社会人を対象に九月十九日から十六回にわたって京都府リカレント講座「生活科学講座―いのち・くらし・健康の科学―」を開催。会場は同志社女子大学今出川キャンパス、テーマ「講師は次の通り」。

第一回「進む地球温暖化―原因・影響・

対象― 高原まり子

第二回「地球環境問題を考える」

佐々木佳代

第三・四回「児童と社会―大人になるとはどういうことか―」

村瀬学

第五・六回「家族と社会福祉―家族支援の方法を考える―」

宮本義信

第七回「バイオテクノロジー―応用食品はどのように規制されているか―FAOレポートから―」

小原弘之

第八回「食べ物は安全か?―食品添加物と農薬と環境ホルモンと―」

川崎祐子

第九回「食品のもつ機能性について」

西村公雄

第十回「食品成分に関するいろいろな表示について」

長崎寿栄

第十一回「高血圧について」

岩崎良文

第十二回「バランスの取れた食事とは何か」

長崎寿栄

第十三回「ライフスタイルを変えて成人病を撃退」

西野幸典

第十四回「骨粗鬆症とその予防」

阿部登茂子

第十五・十六回「ウエルネス―幸福で充実した人生を送るために―」

野崎康明

高等学校

●校祖永眠記念礼拝

一月二十三日(金)

●入学試験

二月五日(木)・六日(金)

受験志願者数二百四十三人(うち女子百二十人 男子百二十三人)

●教職員修養会

二月十四日(土)

講師 深田未来生(同志社大学教授)

「理想を描くための教育―アンテナを磨く―」

於 同志社フレンドピースハウス(ハワイ寮)

会に先立って今出川校地探訪(案内木 村良己教諭)

●卒業式

三月十日(火)

卒業生四百九人(うち女子二百二十二人 男子百八十七人)

●新入生オリエンテーション

三月二十三日(月)・二十四日(火)

今回初めて実施したもので、二十三日には同中学生、二十四日には同中以外の中学生が登校し、山崎彰新校長、玉村弘之新教頭をはじめ各部主任からの訓話・諸注意に耳を傾けた。

経営手腕を発揮された

元事務長小沢忠氏を悼む

小沢氏は大正八年一月生まれ。同志社大学法学部経済学科卒業。在学中は野球部長山田貞夫先生のもとで野球部員。戦争の激化で歩兵第八連隊に入隊。晩部隊、陸軍中尉。陸軍機動輸送艇第十四号機関長としてフィリピン戦線に出陣され、終戦は台湾で迎えられた。

恩師山田貞夫校長の求めで、昭和二十七年九月から本校職員として就任された。昭和四十一年三月本部転勤まで事務長として経営手腕を発揮された。

昭和二十八年には「学校発展のための五つの基本計画」を立てられた。「①生徒数を一千五百人にする、②同志社大学への推薦入学数を増やす、③優秀な教員を招聘する、④教育設備を充実する、⑤校舎を改築する」は今日の香里中高発展の基礎になっている。

昭和二十九年には枚方市香里園に敷地百二十余坪の邸宅を約六十万円で購入され、下山、村岡両校長が居住されたが、十数年後に約六百五十万円で売却された。売却金は本校教職員の福利

入学式

四月九日(木)

新入生四百八人のうち女子二百十五人
(うち外部中学出身四十三人) 男子百九
十三人(同四十九人)

宗教週間

六月一日(月)～六日(土)

荒川共生(アジアボランティアセンター)
「共に生きること」

横山順一(各務原教会)

「パベルの塔、もの申す」

池住義憲(地球市民教育センター)

「平和を叫ぶ」

岡部元英(バプテストホーム施設長)

井関恭夫(バプテスト病院牧師)

六日には教職員・生徒の有志がバプテ
ストを訪問

教育実習

六月一日(月)～十三日(土)

キリスト教科二人ほか十七人

保護者面談

六月九日(火)

二・三年団体鑑賞

七月十三日(月)

劇団京芸「西へ行くものがたり」

於新島記念講堂

一年生クラス合宿

七月十七日(金)・十八日(土)

小松学舎ほか八会場にて

ウエスリー・ホームステイ参加者出発

七月二十五日(土)

夏期休暇中の改修工事

六月～八月にわたってチャペル・各校舎

の外装改修工事が行われた。なお、昨年四月にサイレンからチャイムにかわり、同夏休み中に冷暖房工事をするなど、校舎・施設等の改良がすすめられている。

全国高校野球選手権大会開会式で先導行進

一九九八年は全国高校野球選手権大会の

第八十回記念大会に当たり、第一回大会より連続して参加してきた本校野球部は、その榮譽として、同主将が全国十五高校の野球部主将とともに、開会式で先導行進した。なお初めて甲子園球場を舞台とした一九二三(大正十三年)年の大会には同志社中学が出場している(それまでの鳴尾球場時代には一回出場)。

香里中高

中学校入学試験

一月十五日(木)・十六日(金)

本年度は試験日が大阪府と京都府・奈良

厚生資金として同志社本部に保管されていた。平成五年度には元利合計四千数百万円になり、現在本校の海外交流資金になっている。

また本校の東側に一万五千余坪の雑木林があった。七、八人の地主が共同で宅地開発したが売れずに困っていた。それを小沢氏が香里中高の用地として購入されようとしたが、当時の香里中高には購入だけの財力はなかった。そこで同志社大学に坪三千四百円で世話され、クラブ活動のグラウンドになっていた。大学は田辺校地整備のため昭和六十一年に坪四十五万円で業者に売却し、それが現在オークヒルズ香里になっている。本校は三千坪を半額で分けてもらい、第二グラウンドにしている。

同志社退職後は太平洋信用組合の理事を務められた。奥様を失われた後は寂しさを紛らわせるためか歴史の研究に没頭されていたが、平成九年十一月十三日永眠された。ご冥福を祈る。

(喜多正明 香里中学校・高等学校教諭)

県・兵庫県が異なっていたため、千二百人

近い受験者があったが、果たして何人入学するのを見極めるのが困難であった。受験日に無記名のアンケート調査をした結果、

「本校に合格しても入学しない」が数十人あり、「合格後も他校を受験し結果をみてから判断する」と「合格したら必ず入学する」が半々であった。そこで約四百人の合格を発表したが、登校日には予定数を若干下回ったので、追加合格して定員数を確保した。

●**新校舎「友愛館」起工式** 三月十一日(水)
総長・理事長が出席されて挙行。本校教育の根幹であるキリスト教は愛の宗教であるところから「愛」の字を、また本校が立地する香里の丘の本名は友呂岐の丘であるところから「友」の字を組み合わせて「友愛館」と名付けられた。

●**高校サッカー部の英国遠征**
三月二十二日(出)
十一日間の予定で三十一人の部員がイギリスに行き、A B二チームに分かれて親善試合を行った。戦績はA Bとも二勝二敗であったが、この遠征で国家、宗教、人種、言語の違いを学び、共通のスポーツを通じて同世代の生徒と相互理解を深めることができた。

できた。

●**「山水記念碑」除幕式** 四月五日(出)

同志社香里中高的前身は第二山水中学校である。山水卒業生の人々も六十歳を越えられたが、母校を訪問されても当時を偲ぶものはほとんどない。そこで本館前に山水記念碑の建立が計画され、総長・理事長出席のもとに除幕式と記念式が行われた。式後、山水卒業生の方が「これでわたしたちも同志社を母校と思うことができました」と語られたのが強く印象に残っている。

●**本校創立五十周年募金報告** 四月八日(水)

一九九七年九月二十五日から九八年三月二〇日までの寄付申込件数は百三十八件、寄付申込金額は一、五六六万五千円であった。累計は七百十件、八、九六八万七千円になった。

●**保健の日講演会** 五月六日(水)

守口補導センター所長荒木要子氏と四條暁保健所薬事課西岡鈴子氏が「恐ろしいシンナー覚醒剤」について講演。両者とも一度使用すると習慣性がつき、次第に身体を蝕んでいくことを実例を挙げて説明された。

●**教職員宗教教育研修会** 六月三日(水)

同志社大学法学部教授西田毅教授が「新島襄と福沢諭吉―近代日本における二つの私学精神」と題して講演された。

●**教職員同和教育研修会** 六月十七日(水)

同志社大学松蔭寮寮母蒔田直子さんが、国際結婚を子供を育てた体験を通してさまざまな問題を提起されました。

女子中高

●**卒業式**

三月十七日(火)に、中学校・高等学校の卒業式が行われた。中学生二百三十七人、高校生二百六十五人であった。中学生はすべて本校高等学校に進学、高校生はほとんどが同志社大学、同志社女子大学へと進んだ。

●**修学旅行**

中学生二年生は、三月十八日(水)～二十日(金)の二泊三日の日程で、長崎への修学旅行を実施した。一日目は、ハウステンボスにて異国情緒を堪能した。風物もさることながら、食べ物、特に和風で食すチーズに人気が集まっていたようである。二日目は、メインの長

崎市における班別での自由研修。長崎平和公園の見学の後、平和講話を聞いた。被爆体験者の話に生徒達は大きな感銘を受けた。三日目は、有田で、マグカップに絵付けをし、修学旅行記念とした。

高校生は三月十八日(水)～二十一日(土)の三泊四日の日程で、沖繩への修学旅行を実施した。

一日目は、戦争関係に焦点をしぼり、ひめゆりの塔、糸数塚を見学。その後、平和講話を聞いた。二日目は、首里城公園・嘉手納サンパウロの丘塔を見学。三日目は、那覇国際通りを班別に自由研修した。四日目、平和記念公園、琉球ガラス村を見学して帰途についた。

●入学式

四月八日(水)に、入学式が厳粛に行われた。中学一年生は、六百一人の志願者の中から選ばれた二百六十三人が、高校一年生は、内部進学者二百三十七人に五十九人の志願者の中から選ばれた二十四人を加えた二百六十一人が入学した。

●女子部創立記念日

四月二十一日(火)、創立百二十一年を迎え、記念礼拝をもった。講師として、元

本校英語科教諭の江上幸子先生をお迎えし、「平和をつくりだす者」と題して奨励して頂いた。

●中学一年生修養会

五月十四日(木)～十六日(土)、丹波篠山のユートピア篠山にて、「仲良くならう」を主題に、中学一年生の修養会がもたれた。

●芸術鑑賞

六月十八日(木)、京都コンサートホールにおいて、京都市交響楽団の演奏による、芸術鑑賞がもたれた。オーケストラの伴奏によって、讚美歌を歌って礼拝を持ち、その後、「コリオラン序曲」、「フィンランディア」等の演奏を鑑賞した。

国際中高

●高校二年生保護者会

一月二十四日(土) 教務主任が今年度の進路状況について説明し、学生主任より沖繩研修旅行についての説明を行った。

●中学合唱フェスティバル

二月十四日(土) 今年も、京田辺市の一人暮らし老人の会「むつみ」の皆さんを招待して、各クラスご

とに、この日のために練習してきた曲を披露。また中学生全員で行った全体合唱はすばらしいハーモニーで聴衆を感動させた。教員のコーラスや、お母さん方の賛助出演もあり、保護者の方々とともに楽しいひとときを過ごした。

●卒業式

三月九日(月) 中学校 九十三人 高校二百五十五人の生徒たちが、希望に満ちてそれぞれの道に新しい一歩を踏み出した。

今年度は、本校にとって変化の年である。生徒一人一人の特性をよりいっそう伸ばすべく考えられた週五日制のカリキュラムが、中学校・高等学校ともに新一年生からスタートした。コミュニケーションセンターでの活動も本格的に始まった。生徒たちが自分自身の力で何を学び、何を考え、どのような能力を培っていくのか、我々教員はわくわくしながら見守って行くことになった。

●入学式

四月八日(水) 今年も、国際中学・高等学校での勉学に希望を抱いて、多くの新入生が入学した。

●ローレンスビルスクールへの短期留学

本校の独自プログラムにより、高校二年

生四人が姉妹校であるアメリカ、ニュージーダー州のローレンスビルスクールに短期留学した。約一カ月間、有意義な体験を積んだ。

● 宿泊研修

中学 四月二十三日(木)～二十四日(金)
高校 四月二十日(月)～二十一日(火)

例年通り、京都厚生年金休暇センターに宿泊。同志社国際で学ぶことの意義について勉強した。入学して最初の行事でもあり、お互いを知る良い機会にもなった。

● 中学遠足

雨天のため一日順延して、各学年ごとに遠足を実施。教育実習期間でもあり、実習生も同行して楽しい一日を過ごした。

一年 宇治 天ヶ瀬森林公園

二年 京都嵐山方面

三年 笠置方面

● 高校球技大会

六月十一日(木)
中学遠足同様雨のため一日順延して、クラス対抗のバレーボールを実施。クラスごとにアイディアをこらしたTシャツを着て、元気にプレーを楽しんだ。

● 短期留学生来校

カリフォルニア州ネバダスクールから二

人。ニュージーダー州ローレンスビルスクールから五人の生徒が来校。前者は一週間。後者は一カ月間。いずれも本校の生徒宅にホームステイしながら、本校で学び、生徒と交流した。

● 保護者会

六月十七日(木)
例年保護者会は土曜日の行事であったが、五日制カリキュラムの実施に伴い、今年は中学一年生に関しては授業がない。したがって授業参観の関係上平日であるこの日に保護者会を開催した。平日にも関わらず両親そろっての参観もあり、多数の参加をみた。

● 芸術鑑賞

六月十八日(木)
中学・高校ともに、城陽市にある「文化パルク城陽」において、東京演劇集団『風』による公演「ヘレン・ケラー ひびき合うものたち」を鑑賞した。

● サマーセッションへ出発

六月二十九日(月)
例年通り高校二年生八人が本校の姉妹校であるアメリカのフィリップスアカデミーにサマーセッション参加のため旅立った。約六週間、世界各地から集まった若者たちとともに学び、ともに語り、大きく成長し

て帰国する。

中学校

● 入学式

新入学生 三百二十五人

四月六日(月)

● イースター礼拝

「いのちの復活」

四月十一日(土)

● 新入生オリエンテーションキャンプ

佐伯幸雄(同志社教会牧師)

二期に分けて、関学千刈キャンプ場

● 新入生創立者墓参

四月二十日(月)、二十二日(水)

● 遠足(一、三年生)

四月二十二日(木)

二年生は滋賀県松の浦、三年生は滋賀県希望ヶ丘にて、飯盒炊きながら、新クラスメイトとの親睦をふかめた。

● 生徒会委員研修会

四月十八日(土)、十九日(日)

宇多野ユースホステルにて、生徒会執行委員と三年ホームルーム委員による研修会

● スポーツテスト

五月一日(日)

● 生徒大会

五月十四日(木)

● 一年生保護者のための学校生活案内

の集い

五月十六日(土)

教科・校務よりの説明と施設・クラブ見学

●全校健康診断

五月二十二日(金)

●演劇鑑賞

五月二十八日(木)

「こんにちはおかぐや姫」(青年劇場)

於 同志社大学会館ホール

●教育実習

六月一日(月)～六月十三日(土)

同志社大学より十一人、他大学より一人

●春季宗教教育強調週間

六月一日(月)～六日(土)

「りっぱな□になる方法」

杉本美由紀先生(淀川教会牧師)

「失敗って、わるいこと」

岡崎 岳先生(須磨教会牧師)

「クラッシュ・万事・グー」

横山順一先生(各務原教会牧師)

●花の日礼拝・施設訪問

六月六日(土)

「地の塩 世の光」

市谷経哉(元本校宗教主任)

放課後、花をもってホザナとハンドベル

部員らが盲養護老人ホーム「船岡寮」を訪

問、交流した。

●英語暗唱大会

六月十三日(土)

●第27回合唱コンクール

六月十八日(木)

全校各クラスが学年課題曲と自由曲に挑

んだ。

●マナウス日伯校生徒と交流会

七月十日(金)

ブラジルの生徒三人と先生一人が来校。

生徒会役員等と交流会をもった。

●夏期キャンプ

一年生(全員参加)

七月二十日(月)～二十八日(火)

四期に分けて各期三泊三日で、宮津市由良の本校キャンプサイトで。

二年生(全員参加)

七月二十日(月)～八月一日(土)

四期に分けて各期三泊四日で、長野県白馬村岩岳をベースに、唐松岳に登り、梅池自然園を見学した。

幼稚園

●親子で映画鑑賞

京都會館第二ホール

劇映画

雪の下のしずかなおはなし、ゆず。

記録映画

おじいさんの蕎麦、おばあさんの豆腐、静かな雪の村の暮らし、館細工の動物たち。

一月十九日(月)

おじいさんの蕎麦、おばあさんの豆腐、静かな雪の村の暮らし、館細工の動物たち。

アニメーション 毛糸の動物たちのお話。

●園児たちと園舎の航空写真撮影

一月二十六日(月)

全園児で園庭に「同志社幼稚園」の人文字と同志社のマーク(人文字)を作り、ヘリコプターから写真撮影をした。

●一月お誕生日会

一月二十八日(木)

お誕生日会の日は、午前中教師たちが寸劇や手品などのアトラクションを園児たちに見せ、その月に誕生日を迎えた園児と、母親、教師たちが昼食を共にし、ゲームをして祝う。

●大石先生のお話(童話)を聞く

一月二十九日(木)

●保護者保育参観

二月二日(月)～六日(金)

●防災センターを見学

二月十二日(木)

国道一号线十条にある防災センターを訪ね、地震の揺れを体験し、消防の映画を見て、火遊びをしてはいけないこと、地震や火事の際の注意や行動の仕方などを学ぶ。

●年少・年中組、賀茂川で園外保育

二月十三日(金)

●二月お誕生日会

二月十八日(木)

●年長組 お泊まり保育 二月二十七日(金)

夕方幼稚園に集まり、夕食後ゲームを楽しんだあとホールに園児たちが布団を並べて敷き、ビデオを見て旅行気分で一泊。翌朝もゲームや歌などを楽しむ。寝食を共にすることで園児たちの緊密感と連帯感が一層増していく。

●母の会主催で卒業園児を送るお別れ会
三月二日(月)

全園児と母親で会食をしてアトラクションやゲームをしながら卒業のお祝いをした。

●ひなまつりの日の会食
三月三日(火)

人形劇を鑑賞。

●三月初誕生曰会
三月四日(水)

●卒業記念礼拝
三月十日(火)

同志社中学校のチャペルで卒業園児と母親とで卒業記念礼拝をもった。

●保育修了式
三月十六日(月)

●入園式
四月十三日(月)

●四月初誕生曰会
四月二十二日(水)

●母の日の製作
五月八日(金)

毎年母の日に、各クラス毎に母さんへのプレゼントを作る。郵便物入れてであったり、エプロンであったり……といろいろ。

●年少組、宝ヶ池子供の楽園へ遠足
五月二十日(水)

●年中組、船岡山公園へ遠足
五月二十一日(木)

遠足では動物、植物にも関心を持つように、小鳥、虫、花などをよく観察するように指導する。

●五月初誕生曰会
五月二十七日(水)

●年長組、宝ヶ池公園へ遠足
五月二十八日(木)

●保護者保育参観
六月一日(月)～九日(火)

●歯、耳鼻咽喉の検診、目の検診、内科検診
六月十一日(水)～十三日(金)

●花の曰礼拝
六月十六日(火)

●父の曰のお父さんへのプレゼントを作る
六月十八日(木)

●年中組、年長組、公園の掃除と草抜き
六月二十日(土)

いことを話し、近くの鶴山公園でゴミ拾いと草抜きをしてビニール袋に詰めた。

●六月初誕生曰会
六月二十五日(木)

●七夕の日の会食と製作
七月七日(火)

願い事を書いた色紙を笹の葉に結び付け、七夕飾りを作った。

●七月初誕生曰会
七月八日(水)

●八月初誕生曰会
七月九日(木)

●お遊戯会
七月十六日(水)

各クラス毎に歌、ダンス、リズムバンドなどを発表。そのあとお母さんたちのコーラスグループによる合唱を聞いた。

●年長組、お泊まり保育
七月十七日(金)

みんなで夕食後、園庭でファイヤーを囲んでゲーム、花火などを楽しみ、翌朝は朝食自由遊びの後水着に着替えて水遊びをした。

本園では、人と自然を大切にしている思いやりの心の育成を目指しております。また、各種の行事、集会を通して集団の中で園児たちが友達同士の親密感、連帯感を持つように心掛け、子供たちなりの社会性と自主性を身につけるように導くことも本園の教育目標に掲げています。